

東秩父路線の令和7年度地域間幹線系統確保維持計画の第1次評価 （自己評価）について

（経緯）

イーグルバスが運行する東秩父路線は東秩父村が主体となって運行するバス路線で、国からの補助金を受け運行しています。

令和7年度から補助金交付に係る申請事務が、埼玉県から各沿線自治体に移譲されたため、令和6年度第1回小川町地域公共交通活性化協議会にて「令和7年度地域間幹線系統確保維持計画の策定について」承認をいただき、東秩父村が補助金交付に係る申請事務を一括して行いました。計画策定から1年が経過したため、第1次評価（自己評価）を下記の通り実施するものです。

記

1. 令和7年度（R6.10.1～R7.9.30）地域間幹線系統確保維持計画の第1次評価（自己評価）について

※「別添1 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）」の内容について協議するものです。

2. 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

※「別添1-2 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について」の内容について協議するものです。

3. 令和7年度（R6.10.1～R7.9.30）地域間幹線系統確保維持計画の第1次評価（自己評価）を関東運輸局に対して提出することについて

協議会名・補助対象事業者名

東秩父村地域公共交通活性化協議会
小川町地域公共交通活性化協議会
イーグルバス株式会社

系統名

W01 小川町駅・白石車庫

事業の目的・必要性

路線バスは住民の日常生活を支える最も身近な公共交通機関であり、高齢化の進展や環境問題への対応が急がれる中で、その役割はますます大きくなっている。
また、中心市街地から離れた住宅地や農山村地域に暮らす、車を運転できない高齢者や学生などにとって、バスは生活に必要な不可欠な交通手段である。そのため、地域公共交通の存続が危ぶまれている地域において、生活交通路線として必要なバス路線の運行の維持確保を図る必要がある。

事業の概要・目標・効果

- 路線名
W01 小川町駅白石車庫
- 起点、経由地、終点
起点：小川町駅 経由地：和紙の里 終点：白石車庫
- 系統キロ
16.5km
- 運行回数等
7.3回
- 目標・効果
バス路線を維持することによって、県民の最も身近な公共交通機関として重要な役割を担う乗合バスの充実を図る。当該事業の活用によりバス路線が維持確保されることとなり、事業対象期間中、延べ35,872人（輸送人員ベース）の県民の移動手段の確保が見込まれる
- 利用促進・生産性向上の取り組み
沿線の行事・イベント参加者へのバス利用喚起や、バスの乗り方教室の開催、公共交通会議実開催時の参加者や沿線町村職員への路線バス利用喚起等の利用促進に関する取り組みを自治体と連携し実施する。

●直近3ヶ年の推移

| | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|-----------|--------|--------|--------|
| 輸送人員(人) | 35,770 | 34,824 | 36,500 |
| 経常収支(千円) | ■ | ■ | ■ |
| 収支率(%) | ■ | ■ | ■ |
| 平均乗車密度(人) | 2.9 | 2.5 | 2.8 |
| 補助金額(千円) | 3,085 | 3,279 | 4,386 |

目標・効果の達成状況

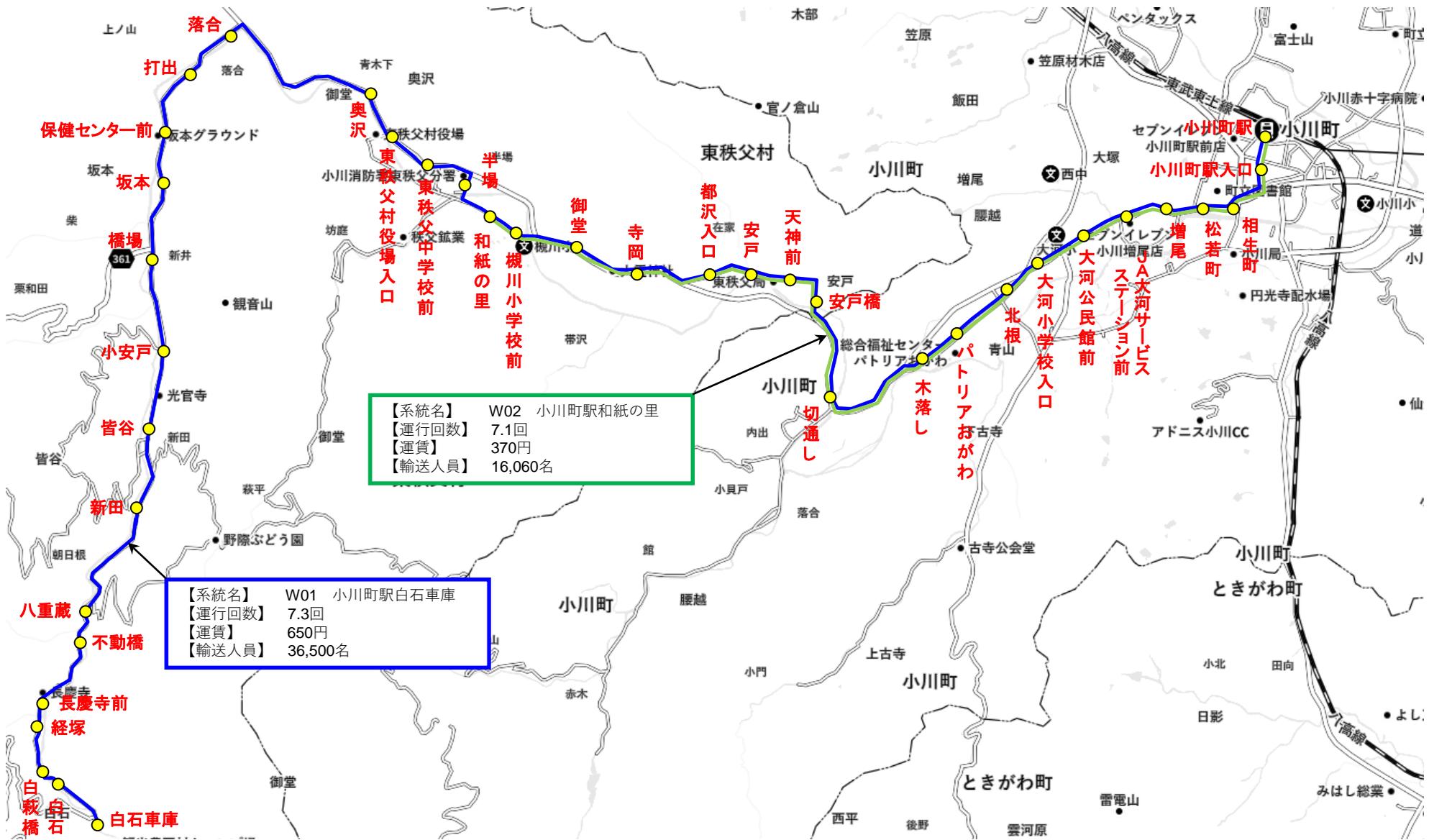
【達成状況】
輸送人員の目標35,872人に対して実績は36,500人となった
【目標が達成となった要因（分析）】
要因はハイキング客がコンスタントに訪れたことによるものと、イベント等によるバス利用の促進周知がされたことによるものと考える。

今後の改善点

東秩父村、小川町と連携し、路線バス利用喚起策を実施すると共に、他交通モードとの乗り継ぎ連携。また、乗務員不足の解消。

※補助対象事業者毎に作成 系統については代表的なものを任意に1系統選定

事業実施区域



| 色 | 系統名 | 起点 | 経過地 | 終点 | キロ程 | 沿線市町村 |
|--|------------------|------|---------|------|--------|----------|
|  | 系統番号W01 小川町駅白石車庫 | 小川町駅 | 和紙の里 | 白石車庫 | 16.5km | 小川町・東秩父村 |
|  | 系統番号W02 小川町駅和紙の里 | 小川町駅 | パトリアおがわ | 和紙の里 | 7.6km | 小川町・東秩父村 |

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月28日

協議会名: 小川町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | ⑤目標・効果達成状況 | ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む) |
|--|---|--|---|--|---|
| 事業者: イーグルバス株式会社 系統: W01 小川町駅・白石車庫 | 運行区間: [起点]小川町駅 [主な経由地]和紙の里 [終点]白石車庫 | 前年の事業評価結果に基づき、引続き沿線行事・イベントの参加者や公共交通会議委員、沿線町村職員への路線バス利用喚起を自治体と連携し実施する計画で、一部イベント自体の開催中止もあったが、その他のイベント輸送では自治体と協力し、バス利用によるイベント会場への移動手段としての利用促進が出来たと思われる。また、路線沿線保育園へのバス教室は中止となったが、バス車内への絵画の掲出は継続的に実施し、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。但し、乗務員不足により、臨時輸送を伴うイベントや多客期における続行便の対応が行えなかった。 | B イベントの中止等により一部の事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった | A 輸送人員の目標35,872人に対して実績は36,500人で目標達成となった。要因はハイキング客がコンスタントに訪れたことによるものと、イベント等によるバス利用の促進周知がされたことによるものと考え。 | 東秩父村、小川町と連携し、路線バス利用喚起策を実施すると共に、他交通モードとの連携、乗務員不足の解消。 |
| 事業者: イーグルバス株式会社 系統: W02 小川町駅・和紙の里 | 運行区間: [起点]小川町駅 [主な経由地]パトリアおがわ [終点]和紙の里 | 前年の事業評価結果に基づき、引続き沿線行事・イベントの参加者や公共交通会議委員、沿線町村職員への路線バス利用喚起を自治体と連携し実施する計画で、特にコロナ明け再開されたイベントでは自治体と協力し、バス利用によるイベント会場への移動手段としての利用促進が出来たと思われる。また、路線沿線保育園へのバス教室、バス車内への絵画の掲出実施により、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。但し、乗務員不足により、臨時輸送を伴うイベントや多客期における続行便の対応が行えなかった。 | B イベントの中止等により一部の事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった | A 輸送人員の目標12,019人に対して実績は16,060人で目標達成となった。要因はハイキング客がコンスタントに訪れたことによるものと、イベント等によるバス利用の促進周知がされたことによるものと考え。 | 東秩父村、小川町と連携し、路線バス利用喚起策を実施すると共に、他交通モードとの連携、乗務員不足の解消。 |

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月28日

| | |
|-----------------------------|---|
| 協議会名： | 小川町地域公共交通活性化協議会 |
| 評価対象事業名： | 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金 |
| 地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性) | <p>路線バスは住民の日常生活を支える最も身近な公共交通機関であり、高齢化の進展や環境問題への対応が急がれる中で、その役割はますます大きくなっている。</p> <p>また、中心市街地から離れた住宅地や農山村地域に暮らす、車を運転できない高齢者や学生などにとって、バスは生活に必要不可欠な交通手段である。</p> <p>そのため、地域公共交通の存続が危ぶまれている地域において、生活交通路線として必要なバス路線の運行の維持確保を図る必要がある。</p> |

<参考資料 事業実施の適切性・目標・効果達成状況の考え方について>

○ 別添1 ④事業実施の適切性

A…計画の内容（バスの運行や生産性向上の取組）を適切に実施した場合

B…計画の一部を適切に実施することができなかった場合

C…計画のすべてを適切に実施することができなかった場合

※ ④においては、計画を適切に実施したかどうかのみを判定の基準とし、実施した事業の結果については⑤ 目標・効果達成状況の評価において反映するものとする。

○ 別添1 ⑤ 目標・効果達成状況について

A…計画の目標（輸送人員や生産性向上の取組で掲げた項目）をすべて達成した場合

B…計画の目標を一つ以上達成できた場合

C…計画の目標すべてを達成できなかった場合